

令和6年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立保谷中学校

全国学力学習状況調査（中学校第3学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる	38.7	思考力・判断力・表現力等が問われる設問において無回答率が低く、特に自分の考えを分かりやすく伝えたり、表現したりする力の定着が見られた。登場人物の心情の変化を読み取る際、着目する観点を明確にして指導しており、その定着が見取れた。	選択式や短答式の設問と比べ、記述式の解答方法による正答率が低かった。記述問題の正答率の上昇を目指し、説得力のある主張を書けるように根拠を明確にするための指導を継続して行っていく。また、知識を増やすだけでなく、活用する技術を高められるように指導していきたい。
	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる	42.0		
	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	44.0		
	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	46.0		
数学	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	15.3	A「数と式」、B「図形」、C「関数」領域については、概ね基礎的・基本的な知識・技能の定着が見られた。特に、筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題において、これまでの基本的な学習の積み重ねを着実にやってきた成果が得られた。	D「データの活用」領域について誤答の割合が高く、無回答率も他の領域の設問と比べると高かった。「箱ひげ図」や「四分位範囲」等の既習事項の確認をしながら定着を図っていきたい。
	データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	18.0		
	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができる	28.0		
	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる	37.3		